▼編集後記

▽二〇二三年四月から放映していたＮＨＫ朝の連続ドラマ「らんまん」。純粋に植物学を愛する主人公槙野万太郎、および国家を背景に国益のための植物学研究を進める東京帝国大学の教授たちとの間の軋轢が、物語の大事な軸の一つとなっている。主人公には生計の問題がのしかかり、留学帰りの教授や助教授には「国」の存在が重くのしかかっている様子が描かれており、物語は単純な善悪に還元されるものではない。「らんまん」、学問と政治の微妙な関係が描かれている。まさか三年前の日本学術会議会員の任用拒否問題が物語に反映しているのではあるまいが、学問の社会的立ち位置を考えさせられてしまう。その点、本号の「特集」は、学問と政治の関係の歴史について着実な実証と位置づけを行った論考によって成り立っており、この問題について深く考える手がかりを提供している。三年前に学術会議があたかも特権団体であるかのような論調がＳＮＳではびこったことを思い返すに、この「特集」が果たしてほしい役割は大変重いようにおもう。

（北村昌史）

▽ずいぶんとお時間をいただきましたが、何とかこの『ゲシヒテ』16号を形にすることができました。これもひとえに編集委員や執筆者の皆さんのご協力と的確なご指摘、そして忍耐強さと優しさの賜物だと心より感謝しております。この16号には論文（二本）、研究ノート、特集に書評が掲載され、非常に盛りだくさんな内容となっております。皆さまには、是非ともじっくりと読んでいただき、日本におけるドイツ現代史研究の奥深さを味わっていただければと思います。

思い返せば二二年度は七回もの研究会がＺＯＯＭで開催されました。毎回、多くの参加者に恵まれ、コロナの流行と共に「仕方なく」模索されたリモートでの研究会ではありますが、上手く定着してきたように感じております。もちろん今後の動向は分かりませんが、研究会への参加やこの『ゲシヒテ』を通じて、ますます活発な歴史学の議論が展開されることを願ってやみません。最後に、二年間にわたり、このような学会誌の編集という貴重な経験をさせて頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

（田中直）

▼編集委員

北村昌史（大阪公立大学）
服部伸（同志社大学）
田野大輔（甲南大学）
中野智世（成城大学）
近藤正基（京都大学）
西田慎（奈良教育大学）
河合信晴（広島大学）

▼編集実務

田中直（同志社大学ほか非常勤講師）

ゲシヒテ

第16号

２０２３年４月３０日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会（代表・田野大輔）

〒６０２－８５８０

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部　服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム